



NEWSLETTER NO.34

Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

有機地球化学研究会

2001.12.4

TOPICS

第 19 回有機地球化学シンポジウム（志賀島シンポジウム） 開催される

有機地球化学研究会第 19 回シンポジウム(志賀島シンポジウム)は 7 月 17 日～19 日の 3 日間、九州大学の村江達士さんのお世話で福岡市休暇村志賀島を会場に開催された。全国から 43 名の方々が参加され、快適な会場で 28 件もの熱のこもった研究発表が行われた。お世話くださった村江達士さんと研究室の方々に、あらためて御礼申し上げます。



第 19 回有機地球化学シンポジウム (志賀島シンポジウム) プログラム

7月17日(火)

特別講演・招待講演 “ 腐植物質研究の進歩 ”

特 1. **石渡良志** (都立大名誉教授)

腐植物質研究の進歩:堆積物中の腐植物質について (座長:下山晃)

特 2. **米林甲陽** (京都府立大・農)

腐植物質研究の進歩:土壌腐植物質の化学構造はどこまで解明されたか? (座長:鈴木祐一郎)

一般講演 (1) 座長:三瓶良和・奈良岡浩

発表者氏名(所属、は講演者) 講演題目

1. **深山健一・北島富美雄・村江達士** (九大院理・地球惑星) 霧島温泉堆積物中における古細菌由来のエーテル脂質の探索

2. **金子信行** (産総研) 天然ガスの炭素同位体組成からみたバクテリアメタンの生成機構

3. **田上英一郎・西條佐智子** (名大院環境・地球環境科学) 海洋表層懸濁態有機物に認められるタンパク質分子について

4. **三瓶良和・沢田順弘・佐久間亮輔** (島根大理工)・**斎藤眞** (産総研)・**阿部智史** (池辺地質コンサル) 岐阜県貝月山花崗岩によって接触変成作用を受けた海成黒色頁岩の有機物変化

5. **力石嘉人・奈良岡浩** (都立大・理) 榛名湖環境における n-アルカンの分子レベル水素・炭素同位体組成

6. **奈良岡浩** (都立大・理) 西オーストラリア・ハマースレイ地域、Jeerinah 層黒色頁岩ボーリングコア試料 (約 27 億年前) 中バイオマーカーの GC-MS/MS 分析

7. **福島和夫・千吉良晶子・堀内昇** (信州大・理) 熱分解生成物中のバイオマーカーについて (II)

8. **春日麻紀・遠藤充雄・福島和夫** (信州大・理) 湖沼堆積物中の非汚染性多環芳香族炭化水素の動態

9. **奥田知明・高田秀重** (農工大・農)・**奈良岡浩** (都立大・理) 自動車由来 PAHs の安定炭素同位体組成

10. **松本公平** (北大低温研)・**河村公隆** (北大低温研)・**内田昌男** (海洋科学技術センター)・**柴田康行** (国立環境研)・**米田穰** (国立環境研) 分子レベル放射性炭素年代測定並びに分子レベル

安定炭素同位体比分析から推察される大気エアロゾル中の脂肪酸の起源について

11. **鈴木祐一郎** (産総研)・**山本正伸** (北大)・**佐藤喜男** (チュラロンコン大)・**斉藤文紀** (産総研)・**シンサクル** (タイ鉱産局) TMAH 法 Py-GC/MS 分析によるタイ王国完新世チャオプラデルタ堆積物のリグニン組成の変化について

12. **西田典由・山内敬明・村江達士** (九大院理・地球惑星) 河口域表層土のフミン酸の構造解析と環境要因抽出の試み

7月18日(水)

一般講演 (2) (座長:鈴木徳行・奥井明彦)

13. **野本信也・小園正樹・三田肇・下山晃** (筑波大・化学) 新庄・新第三紀および川流布・K/T 境界層堆積岩の酸化抽出により得られたメチルフタルイミドの起源と異性体比

14. **小園正樹・野本信也・三田肇・下山晃** (筑波大・化学) Dimethyl-/ethylmethylmaleimide 比に基づく堆積岩中の新奇熱熟成度指標

15. **鈴木徳行** (北大院理・地球惑星) デグラデナイトの成因

16. **吉岡秀佳** (石油公団・科学技術振興事業団) レーザー照射による微小領域に含まれる有機物の分析方法の開発

17. **猪狩俊一郎** (産総研) 油ガス田地帯空気中の軽質炭化水素濃度の変化

18. **小田 浩・鈴木祐一郎** (産総研) 岩手県久慈炭田地域の石炭は、石油・天然ガス根源岩として有望か?

19. **Ratnayake, N. P., Matsubara, M., Suzuki, N.** (Division of Earth and Planetary Sciences, Graduate School of Science, Hokkaido University, Japan), and **Okada M** (Department of Environmental Sciences, Ibaraki University, Japan) VARIATION OF $\delta^{13}\text{C}$ OF TERRESTRIAL N-ALKANES IN DEEP-SEA SEDIMENTS FROM NORTH PACIFIC OCEAN AND BERING SEA DURING THE LAST 300KYRS

20. **木佐森聖樹・奥井明彦** (石油公団)・**三谷尚洋** (出光興産中研) 石油の移動を示すバイオマーカーに関する研究 キノリン類による検討

21. **奥井明彦** (石油公団)・**平原章吾** (出光オイルアンドガス開発)・**松原 聖**・**北村 修** (富士総研) 北部北海における油・ガスの生成・移動・集積 原油分析およびコンピューターシミュレーションからのアプローチ
22. **土田邦博**・**奥井明彦**・**岩橋龍太郎** (石油公団) コンピューターシミュレーションを用いた根源岩分布予測 現世タンガニーカ湖におけるケーススタディ
23. **中島真美子**・**村江達士** (九大院理・地球惑星) 原始細胞膜としてのマリグラヌール生成過程におけるアミノ酸の挙動

24. **河野徹士**・**村江達士** (九大院理・地球惑星) 初期代謝解明を目的とした外部環境変化に伴うモデル細胞膜の物質透過性の検討

7月19日(木)

特別講演・招待講演 (2)

特3. **持田 勲** (九大・機能研)

石炭・アスファルテンの構造イメージと効用 (座長:村江達士)

特4. **渡邊 亨** (磐城沖石油開発)

中東への関心 石油探鉱家の努力 (座長:武田信従)

第3回(2001年度)有機地球化学賞(学術賞)受賞者決まる

第3回有機地球化学賞(学術賞)は選考委員会で審議された後、7月18日に行われた運営委員会において、河村公隆会員に与えられることが決まった。同日の総会において、石渡会長より同賞が授与された。

有機地球化学賞(学術賞)

受賞者：**河村 公隆** 会員

所属：北海道大学低温科学研究所教授

受賞題目：「降雪・氷床コアの有機物解析による大気環境復元の研究」

受賞理由：地球環境の変動の問題は人類社会にとって最大の関心事の一つである。有機地球化学にとっても重要なテーマとなっており研究者の活躍が期待されている。河村公隆会員は早い段階からこの課題に関心を持ち研究活動を行っている世界的にも数少ない研究者である。同会員は有機地球化学の手法をそれまでほとんど研究の行われてこなかった降雪・氷床コア試料に導入した。

特にアイスコアの研究では、脂肪酸、ジカルボン酸、PAHなどの有機物が微量ながらアイスコア中に保存されており、その深度分布から過去の大気環境の変化に関する情報を抽出できることをはじめて報告した。その成果は、Geophysical Research Letter, J. Geophysical Researchなどの国際誌に掲載され、高い評価を受けている。これら一連の研究によって、同氏は有機物が大気環境の変化を還元するトレーサーとして有用であることを明らかにした。有機地球化学の研究法論をアイスコア研究に応用し、将来の研究方向を示した功績は大きい。この他にも同氏は堆積物有機地球化学、大気化学分野でも活発に活躍しており、数多くの研究業績をあげている。以上のことから、当選考委員会は河村公隆会員を有機地球化学賞(学術賞)受賞者としてふさわしいと評価した。

(有機地球化学賞受賞者選考委員会 委員長：下山 晃(長) 秋山雅彦、石渡良志、渡辺 亨)

第3回(2001年度)有機地球化学研究会研究奨励賞(田口賞)受賞者決まる

第3回有機地球化学研究会研究奨励賞(田口賞)は選考委員会で審議された後、7月18日に行われた運営委員会において、松本公平会員と早川和秀会員に与えられることが決まった。同日の総会において、石渡会長より同賞が授与された。

研究奨励賞(田口賞)第4号

松本 公平 会員

研究課題：「ステロール炭素安定同位体比測定と地球化学への応用」

松本公平会員は、GC-C-IR-MSによる個別ステロール分子の炭素安定同位体比分析法の開発に従事し、方法を確立するとともに、実際の堆積物

試料に適用し、顕著な成果をおさめた。従来堆積物中において、炭素数 C_{27} , C_{28} , C_{29} のステロール相対組成は有機物の起源を評価しうる有力な指標(バイオマーカー)であるとされて来た。しかしその後の研究で、それまでもっぱら陸上植物起源指標とされてきた β -シトステロール(C_{29})が、海生の植物プランクトンや藻類によっても少なからず生産されることがわかり、この指標の正当性に対して疑問が寄せられている。そこでステロール組成とそれぞれの同位体比とをあわせて分析することにより、ステロールの指標性をより明確にしようとして取り組まれたのがこの研究である。松本会員は、薄層クロマトグラフィー、自動固層抽出機による抽出画分の分離精製の併用により個々のステロールをキャピラリーガスクロマトグラフにて効率よく分離することに成功し、それぞれの炭素安定同位体比の測定を可能にした。さらにこの手法を日本海堆積物に適用し、同位体比から、3万年前の日本海洋堆積物に含まれる

シトステロールが陸上植物によって生産されたものであること、またステロールの濃度とその同位体比とから、氷期の日本海においては風送塵、又は河川によって大量の陸起源物質が輸送されたことを明らかにした。



(研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会)

研究奨励賞(田口賞)第5号

早川 和秀 会員

研究課題:「沈降粒子中の脂肪酸を指標としたプランクトンブルームの評価」



早川和秀会員は、植物プランクトン、懸濁物、沈降粒子など環境試料中の脂肪酸組成が示す時間的・季節的な変動を解析する研究に従事し、沈降粒子に見られる脂肪酸フラックスおよび組成が、植物プランクトンの増殖ステージと密接に関

わっていることを指摘した。早川会員の研究は、カナダバンクーバーでの内湾に設置されたメソコズムにおいて、人為的にコントロールされた系での植物プランクトンの増殖と懸濁粒子中の脂肪酸組成との関係を観察したものと、南極海、西部北太平洋をフィールドとした沈降粒子中の脂肪酸の調査研究に大別される。前者においては、植物プランクトン量、その増殖段階、優占種の交代が懸濁物中の極性脂質を構成する脂肪酸量と組成に反映することを見出した。また後者の研究においては、沈降粒子(フェーカルペレット)中の不飽和脂肪酸/飽和脂肪酸比に着目し、それぞれの鉛直輸送量(フラックス)を求めるとともに、その比が、海洋表層における植物プランクトンの増殖時に増大することから、プランクトンブルームを示す有力なパラメータとなりうること、すなわち脂肪酸の生態学的指標性という考え方を提案した。

(研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会)

運営委員会報告

日 時: 2001年7月18日 13:30~16:00
場 所: 福岡県福岡市休暇村「志賀島」小会議室
出席者

会 長: 石渡良志, 運営委員: 奥井明彦, 坂田 将, 鈴木徳行, 鈴木祐一郎, 武田信従, 田上英一郎, 奈良岡浩, 福島和夫, 村江達士

議 事

1. 2000 年度事業・会計報告、2001 年度事業・会計中間報告

- 新しい事務局長（鈴木徳行会員）より 2001 年 3 月末に滞りなく事務局の引継が行われたことが報告された。前年度の 2000 年度会計も含めて、新事務局（北海道大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻内）から報告が行われた。
- 2001 年度の事業計画について審議し、以下のことが決議された。
 - ・新たに学生会員枠を作り会費を半額（年間 1000 円）とする。ただし、学生会員の場合は卒業等により実質的に研究活動から離れ、会費を納めない人が多いので除名手続きを簡便にする必要がある。そのため事務局長はそれらの確認を行った後、運営委員会に諮らずに除名手続きが出来るものとし、事後運営委員会に報告する。
 - ・2001 年度の有機地球化学シンポジウムにおける特別招待講演者、米林甲揚氏および持田勲氏の交通費（それぞれ、4 万円、5 千円）は田口基金から出費することとした。
 - ・有機地球化学シンポジウム開催に際して予算がともなう新しい企画をする場合には、できる限り事前に運営委員会で審議する。運営委員が集まることは容易でないので運営委員会メーリングリストを利用して審議する。
- 第 19 回志賀島シンポジウムについて（村江達士）

シンポジウムはこれまでとスタイルを変えてみたこと（招待講演，ポスター発表，総合討論など），学生バイトは使っていないこと、参加費を無料にして対処したこと、要旨集は製本機を利用して作成したこと、今回のシンポジウム開催に際したいろいろ工夫が紹介された。

2. 研究奨励賞（田口賞）、有機地球化学賞（学術賞）選考結果の報告と承認

- 田口賞選考委員会での選考経過が紹介された（福島委員長報告）。

その結果、2001 年度の田口賞候補者として早川和秀氏（滋賀県琵琶湖研究所）、松本公平氏（北海道大学低温科学研究所）の 2 名の会員が推薦された。運営委員会で審議し、受賞を決定した。

受賞者 松本公平氏 受賞題目「ステロール炭素安定同位体比測定と地球化学への応用」

受賞者 早川和秀氏 受賞題目「沈降粒子中の脂肪酸を指標としたプランクトンブルームの評価」

- 有機地球化学賞（学術賞）選考委員会（石渡選考委員報告：下山委員長代理）

石渡選考委員より選考委員会の選考経過が紹介され、学術賞候補者 1 名、河村公隆会員（北海道大学低温科学研究所）が推薦された。運営委員会で審議し、同氏の受賞を決定した。

受賞者 河村公隆氏 受賞題目「降雪・氷床コアの有機物解析による大気環境復元の研究」

3. 2002-2003 年度の研究会運営体制について

- 石渡会長より、研究会の新しい運営体制について原案が紹介された。審議の結果、下記の原案が承認された。任期は 2001 年 7 月 20 日より 2003 年シンポジウムの最終日まで 2 年間。
 - ・会長、副会長、運営委員、監事の改選
会 長：石渡良志
副 会 長：福島和夫
運営委員：氏家良博、奥井明彦、河村公隆、坂田 将、鈴木徳行、鈴木祐一郎、高田秀重、武田信従、田上英一郎、平井明夫、村江達士（以上留任）、奈良岡 浩（以上 12 名）
監 事：山本修一
 - ・学術賞選考委員（4 名）の改選
下山 晃（留任）（委員長）、鈴木徳行、福島和夫、武田信従、河村公隆
 - ・田口賞選考委員（5 名）の改選
氏家良博（留任）（委員長）、坂田 将、高田秀重（留任）、奈良岡 浩、田上英一郎
 - ・ROG 編集委員（5 名）の改選
福島和夫（委員長）、河村公隆、鈴木徳行、高田秀重（以上留任）、奈良岡 浩（新任）

4. 2002 年度事業および会計について

〔事業計画〕

- 第 20 回有機地球化学シンポジウム（2002 年）の開催地について
産総研の坂田 将会員より、つくば地区で開催したいとの立候補があった。審議の結果、承認された。
- 当面の研究会体制について（事務局）

新事務局（北大）より下記の提案があった。
- ・研究会メーリングリスト
研究会会員メーリングリスト（民間の freeml を利用）を近日中に公開することが了解された。会員のみがメーリングリストを利用できる。非会員は投稿できない。

旧地質調査所サーバーに仕様の変更があるので、新しい役員会メーリングリストを北大事務局で作成する。役員会メーリングリストは北大地惑専攻サーバーを利用して事務局が作成し提供する。

・ニュースレター

ニュースレターは会員メーリングリストを用いて配布することを試みる事が了解された。メールアドレスのない会員にはこれまで通りニュースレターを郵送する。ある程度の試行期間を経て再度検討する。

・ホームページ

研究会ホームページを公式に立ち上げる予算(3万円)を支出することが了承された。近日中に研究会ホームページを立ち上げる。

・研究会アーカイブ

研究会各種資料の保管庫(アーカイブ)としてNTTコミュニケーションズが開発提供しているShareStageを利用することが了解された。事務局は研究会の各種資料(過去のニュースレター、役員変遷、シンポジウム開催地記録など)をここに保管し、すべての会員が随時閲覧できる環境を提供する。会員名簿

の閲覧は、メーリングリストにより会員に意見をもとめ、その結果を考慮して会員に公開することとする。近日中に会員にアンケートを実施する。

➤ ROGの発行(福島)

Vol.16を予定通り発行する。論文5編。発行は8月を予定。

➤ 将来計画委員会(またはWG)の設置
〔将来計画委員会の設置〕

会長より将来計画委員会を設置することが提案された。研究会を取り巻く状況が変化しているので、研究会の将来への体制、対応を検討する必要がある。結果を運営委員会に報告し諮る。来年の運営委員会に答申する。必要があれば若干名委員に加わってもらう。審議の結果、3名の会員に将来計画委員を委嘱し、研究会の将来像について検討してもらうこととなった。

委員：河村公隆、鈴木徳行、田上英一郎
(主な検討課題)

研究会の今後のあり方、ROGの見直し、シンポジウムのあり方、その他研究会の将来に関わること

2001年度総会記事

表記の総会が2001年7月18日福岡県福岡市休暇村志賀島会議室において、坂田将氏を議長に選出して、開催された。総会では以下の事項が審議あるいは承認された。

(事業・会計報告および計画)

➤ 2000年度事業・会計報告(2000年1月1日~2000年12月31日)

・事業報告

ニュースレターNo.31(2000.5.15), No.32(2000.8.25)発行

ROG Vol. 15 発行(2000.8)

ROG編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会(2000.7.27; 於南大沢)

学術賞受賞候補者選考委員会(2000.7.27; 於南大沢)

運営委員会(2000.7.27; 於南大沢)

総会(2000.7.28; 於南大沢)

第18回有機地球化学シンポジウム(2000.7.27~7.28; 於南大沢)

・会計報告

一般会計

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	1,338,317	ROG印刷費(振込手数料込)	381,370
会費(賛助)	140,000	郵送料	60,300
会費(個人)	84,000	雑費	26,054
ROGページチャージ	65,000	次年度繰越金	1,209,749
ROG売上げ	49,400		
利息	716		
計	1,677,473	計	1,677,473

田口基金

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度繰越金	2,188,539	次年度繰越金	2,188,811
利息	272		
計	2,188,811	計	2,188,811

会計監査報告

有機地球化学研究会および田口基金の2000年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領証、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められたので、ここに報告致します。

平成13年6月12日

監事 山本 修一 (印)

➤ 2001年度事業・会計中間報告および今後の計画

- ・事業中間報告 (2001年1月1日～2001年7月18日)
 - ニュースレターNo.33 発行 (2001.5.7)
 - ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会 (2001.7.18; 於志賀島)
 - 学術賞受賞候補者選考委員会 (2001.7.18; 於志賀島)
 - 運営委員会 (2001.7.18; 於志賀島)
 - 総会 (2001.7.18; 於志賀島)
 - 第19回有機地球化学シンポジウム (2001.7.17～7.19; 於志賀島)
- ・今後の計画 (2001年7月19日～2001年12月31日)
 - ROG Vol.16 発行
 - ニュースレターNo.34 発行
- ・一般会計中間報告 (2001年1月1日～2001年6月30日)

一般会計

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,209,749	郵送料	24,570
会費 (個人)	22,000	雑費	6,439
ROG 収入 (ROG・論文集)	25,750	残高	1,227,310
利息	820		
計	1,258,319	計	1,258,319

- ・今後の一般会計計画 (2001年7月1日～2001年12月31日)

一般会計

収入の部		支出の部	
残高	1,227,310	ROG Vol.16 印刷費	400,000
会費 (個人)	330,000	郵送料	60,000
会費 (賛助)	80,000	雑費	35,000
ROG ページチャージ	20,000	次年度繰越金	1,162,510
利息	200		
計	1,657,510	計	1,657,510

➤ 2002年度事業・会計計画 (2002年1月1日～2002年12月31日)

- ・事業計画
 - ROG Vol.17 発行
 - ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会
 - 学術賞受賞候補者選考委員会
 - 運営委員会
 - 第20回有機地球化学シンポジウム
 - 総会
 - ニュースレター発行
- ・会計計画

一般会計			
収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,162,510	ROG Vol.17 印刷費	400,000
会費(個人)	222,000	郵送料	60,000
会費(賛助)	80,000	雑費(HP制作費を含む)	60,000
利息	1,000	次年度繰越金	945,510
計	1,465,510	計	1,465,510

全会一致で承認された。

会員現況

入会(2000.7.27~2001.6.30) なし

退会(一般会員)(2000.7.27~2001.6.30)

関口嘉一, 三木孝, 雨森郷太郎, 亀井良哉, 川田洋平, 仲條智宣, 松原正明

現在の会員数は122名(一般会員119名, 学生会員3名), 賛助会員2社

PRIZE and AWARDS

研究奨励賞(田口賞)2002年度受賞候補者の募集

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会
委員長 氏家 良博

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により, 同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては, 下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格: 生年月日が1968年4月2日以降で, 有機地球化学, 石油地質学, 堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い, 将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。募集の方法: 本会会員の推薦による。自薦他薦

は問いません。

推薦の方法: 下記の事項をA4サイズの用紙に記入し, 書留で郵送すること。記入の様式は自由。

1) 推薦理由および研究題目

2) 履歴書

3) 研究業績目録

4) 研究論文の別刷り又はコピー

5) 推薦者の氏名と連絡先

締切日: 2002年5月31日(金)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先:

〒036-8561 弘前市文京町3

弘前大学理工学部地球環境学科 氏家良博

電話・ファックス: 0172-39-3952、

e-mail: ujii@cc.hirosaki-u.ac.jp

INFORMATION

ROG 出版状況と投稿の呼びかけ

Researches in Organic Geochemistry 編集委員会

本研究会の機関誌「Researches in Organic Geochemistry」(ROG)は, 2000年までに計15巻(各巻1号)が刊行されました。第16巻は当初の予定であった2001年6月より大変遅れてしま

いましたが, 今年の11月の初めに発行する予定です。ROGはこれまで, 1982年(Vol.3)から2年に1巻, 1994年(Vol.9)から, 年1巻発行されて来ました。当初有機地球化学シンポジウムの

Extended Abstracts 的な性格を持っていましたが、日本での有機地球化学分野の展開と、会員の皆さんの協力を得て、今では Referee 付きの専門論文誌として次第に定着しつつあります。

このような背景のもとで ROG を年間複数号発行することによって、受理から印刷・出版までの期間を短縮してほしいという強い声が出されるようになりました。そこで運営委員会ではこの方向を承認し、編集委員会としても定期発行月の6月を待たずに原稿がそろった段階で発行することを前提として作業を進めて来ましたが、ただこれが可能となるためには原稿がたくさん寄せられなければなりません。編集委員会は、審査を厳しくすることよりも、より充実した論文となるように助言することを重視しています。とくに大学院生を中心とした若手の方の投稿を待っています。それぞれの巻末には投稿規定が掲載されていますので、これを参照の上、積極的にご投稿、もしくは投稿をお勧め下さるようお願いいたします。今の段階での Vol.17 の編集日程は以下のとおりです。これは来年6月発行としたときの目安ですので、早い投稿は大歓迎です。よろしくご協力下さい。



有機地球化学研究会の歴史(4) 更なる発展を願って

札幌学院大学 秋山雅彦

European Association of Organic Geochemists の HP<<http://www.eaor.org/>>には、その学会の歴史が Keith A. Kvenvolden によって下記のように記述されている。有機地球化学関連の国際的な歴史を知るのにきわめて有効と思われるのでその一部を転載させていただく。

<Organic Geochemistry has been organized and recognized as a geoscience for about 40 years. It was built, in part, upon the nascent field of petroleum geochemistry, which held its first organized meeting in June of 1959 during the 5th World Petroleum Congress in New York City. This meeting "General Petroleum Geochemistry Symposium" was organized by Bart Nagy, Ed Baker, and Paul Witherspoon and held at Fordham University. A Gordon Research Conference "Origin of Petroleum", co-chaired by Harold Smith and Fred Rossini, followed in 1963 at Tilton School, New Hampshire. From 1964 to 1967, additional conferences in "Geochemistry" were held at the Tilton School.

Meanwhile, the Organic Geochemistry Division (O.

記

<Researches in Organic Geochemistry Vol.17>

1. 発行予定：2002年6月
2. 投稿締切：2001年12月28日(金)
3. ページチャージは6ページを超えた分につき、投稿者が刷り上がり1ページにつき5000円を負担する。
4. 投稿先：〒390-8621 松本市旭3-1-1
信州大学理学部物質循環学科
福島和夫 宛
5. 問い合わせ：電話 0263-37-2502
ファックス 0263-37-2560
E-mail kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp
(なるべくE-mailでお願いします)
または最寄りの編集委員まで
(北大)河村公隆：
kawamura@lowtem.hokudai.ac.jp
(東京都立大)奈良岡浩：
naraoka-hiroshi@c.metro-u.ac.jp
(北大)鈴木徳行：suzu@ep.sci.hokudai.ac.jp
(東京農工大)高田秀重：shige@cc.tuat.ac.jp
(弘前大)氏家良博：ujiie@cc.hirosaki-u.ac.jp

G. D.) of The Geochemical Society was formed in November of 1960 on the occasion of the annual meeting of the Geological Society of America. By early 1961, the group had almost 200 members and was recognized as an integral part of The Geochemical Society.

In September of 1962, the 1st International Meeting on Organic Geochemistry was held in Milan, Italy, where 120 geochemists and others from Europe, America, Africa, and Asia were present. As of the year 2000, there will have been 19 International Meetings, the latest held in Istanbul, Turkey, in September of 1999.

Gordon Research Conferences, devoted specifically to Organic Geochemistry, began in 1968 and have continued to be held every other year. A listing of these International Meetings and Gordon Research Conferences is recorded here.

The journal, Organic Geochemistry, was established in 1977 by I. A. Breger, and became affiliated with the European Association of Organic Geochemists (EAOG) in 1983. In 1988, this

publication was designated as the Official Journal of the EAOG and continues to be published. >

1960年代には、上記の記述から分かるように、国外で有機地球化学の急速な発展が始まっていた。Geochemical SocietyのOrganic Geochemistry Division (O. G. D.)が1960年に設立、Organic Geochemistryの第1回の国際会議がミラノで1962年に実施、そしてGordon Research ConferenceのOrganic Geochemistryの部門が1968年に設立、といった状況であった。雑誌Organic GeochemistryはUSGSのIrving A. BregerをEditorとして1977年に創刊された。この雑誌はPergamon Pressからの出版でInternational Association of Geochemistry and Cosmochemistryの出版物として位置づけられていた。Bregerは不幸にして1983年に亡くなってしまふ。その後を引き継いでEarl W. BakerがEditorとなり、Vol.5 (1983)からEuropean Association of Organic Geochemists (EAOG)の出版物となった。そして、Vol.12 (1988)からはEAOGのOfficial Journalとして位置づけられ現在に至っている。EAOGが主催するOrganic Geochemistryの国際会議は隔年ごとに開催され、第20回の会議が本年9月にフランスNancyで開催される。

私がUSGSにBregerを訪ねたのは1979年の初夏であったと記憶している。当時、私はUniversity of MarylandのC. Ponnampernaの研究室でグリーンランド産の原生代チャートからアミノ酸を抽出し、そのラセミ化についての研究を進めていた。その訪問の際にBregerから提供していただいたGreen River Shaleの粉末サンプル (Geostandard 015 SGR-1 Split No.654)はタイプケロジェンのスタンダードサンプルとして、これまでの私たちの研究に有効に利用してきた。そのサンプル瓶を取り出す度に、あの太りすぎていた彼の姿を思い出す。

ところで、上記のような国際的な活動状況に対応して、国内でも有機地球化学研究の組織作りが必要であるとの認識から、1972年に仙台の宮城教育大学で開催された日本地球化学会の討論会の際に集会をもち、有機地球化学談話会が発足した。この創設期の経緯についてはすでにこのシリーズのNo.1で述べてきたところである。

1975年田口総研(B)「有機物の続成作用的变化」その研究報告がResearches in Organic Geochemistry Vol.1として刊行された。ついで、1980年からは3年間の総研(A)「堆積岩の続成作用に関する研究」が発足し、1983年に成果報告書が刊行されている。その成果は研究代表者の田口一雄によって1986年SEPM Special Publication No.8 “Role of Organic Matter in Sediment Diagenesis”に掲載されている。

このような成果を背景に、1985年10月17日開催の研究会総会で、それまでの有機地球化学談話会は有機地球化学研究会 (The Japanese Association of Organic Geochemists) という名称の学会に昇格することになる。学会となるための活動基盤が創られてきたこととともに、石油関連会社に賛助会員として登録してもらうためにも必要な措置であった。研究会の発足に当たっては新しい会則が設定され、会長、運営委員、監事などの役員がおかれ、学会としての体裁が整った。初代会長には田口一雄会員が選出された。この時期以降を創設期に次ぐ発展の第2期と位置づけることが出来よう。



第9回 1989年シンポジウム(筑波 地質調査所)

隔年ごとに実施されていた研究会のシンポジウムが1994年から毎年の開催となった。それにとまって、Researches in Organic Geochemistry (ROG)もVol.10から年1冊の刊行となった。1996年刊行のVol.11からは鈴木徳行会員の制作による美しいロゴマークがROGの表紙を飾っている。当時、研究会の会長を務めていた私はそのVol.11に「田口一雄先生ご逝去を悼む」という悲しい記事を書くことになる。逝去された1996年は研究会が発展の第3期を迎えた時期であった。研究会の大黒柱をこのように早く失ってしまったことは誠に残念でならない。なお、会誌ROGの国際登録は1999年6月発行のVol.14から、ISSN 1344-9915となっている。

1997年には研究奨励賞(田口賞)が新設され、2名の若手会員が授賞した。有機地球化学賞(学術賞)は1999年の創設で、その年に第1回の授賞式が行われた。

情報化時代を迎え、研究会のHP <<http://www.aist.go.jp/GSJ/dFR/rog.html>>が地質調査所の事務局内で開設され、その記事は1996年10月4日発行のNewsLetter 23に掲載されている。昨年事務局が北海道大学へ移転し、NewsLetterがHPからダウンロードできるようになった。この新しいホームページアドレスは、<

<http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~jog/> である。

更には、研究会の ML が設定され、情報の伝達が便利になってきている。

本年の福岡市志賀島シンポジウム（研究会総会）では、研究会を取り巻く状況の変化にともなって将来構想を検討するための「将来計画委員会」が設置された。次の発展への契機となることを期待したい。

最後に News Letter から抜粋した事項をメモの形で掲載しておく。

< 会費の変遷 >

年額 500 円（1977 年 3 月発行の NewsLetter No.1 に記述あり）

1984 年から年額 1,000 円 賛助会員 20,000 円

1997 年 年額 2,000 円

< 会員数の推移 >

1973 年 8 月の会員名簿：51 名

1977 年 10 月の会員名簿：69 名

1982 年 10 月の会員名簿：85 名

1986 年 10 月の会員名簿：会員 106 名、賛助会員 5 社（石油資源開発（株）、帝国石油（株）技術研究所、日本鉱業（株）、アブダビ石油（株））

1992 年 1 月の会員名簿：会員 102 名、賛助会員 3 社（石油資源開発（株）、日鉱石油（株）、帝国石油（株））

1994 年 8 月の会員名簿：会員 106 名、賛助会員 3 社（石油資源開発（株）、帝国石油（株）、ジャパンエナジー石油開発（株））

1999 年 10 月の会員名簿：会員 130 名、賛助会員 3 社（石油資源開発（株）、帝国石油（株）、ジャパンエナジー石油開発（株））、会員の内訳は大学関係者 68 名、石油会社および石油公団 31、官公庁 20、その他

2001 年 6 月 30 日現在：会員 122 名、賛助会員 2 社

< 会則について >

1985 年 10 月 17 日の総会で承認。有機地球化学研究会（The Japanese Association of Organic Geochemists）となる。会長、運営委員、監事がおかれ、学会としての体裁がつけられる

1997 年 7 月 29 日改訂（年 1 回のシンポジウムの開催、研究奨励賞（田口賞）の新設のため改訂）

1999 年 7 月 31 日改訂（有機地球化学賞（学術賞）の新設のため改訂）

< 研究奨励賞（田口賞） >

第 1 回受賞（1997/7/28）山本正伸（地質調査所）

「アザーレン組成に基づく石油移動の有機地球化学的研究」、山田桂太（東京都立大学）「個別炭化水素の安定炭素同位体組成による有機地球化

学的研究」故田口一雄氏夫人の出席のもとでの授賞式。田口先生のご遺族からの寄付、総額 2,438,000 円が田口賞の基金となる

第 2 回受賞（1998/7/31）古宮正利（地質調査所）

「連続昇温加熱による南極炭素質隕石中の不溶性有機物分解とその組成」

第 3 回受賞（2001/7/18）早川和秀（滋賀県琵琶湖研究所）「沈殿粒子中の脂肪酸を指標としたプランクトンブルームの評価」、松本公平（北海道大学低温科学研究所）「ステロール炭素安定同位体比測定と地球化学への応用」

< 学術賞 >

有機地球化学の分野で顕著な学術業績を上げた会員に贈る賞として、1999 年 7 月 27 日の運営委員会で制定、有機地球化学賞（学術賞）

第 1 回受賞（1999/7/27）鈴木徳行（北海道大学）

「速度論的アプローチによる有機物熟成過程の研究」

第 2 回受賞（2000/7/28）福島和夫（信州大学）「酸性湖を中心とした異なる環境下での堆積物中の鎖状脂質化合物の特徴に関する研究」、武田從信（石油資源開発株式会社）「根源岩の圧密熱分解実験による石油生成に関する研究」

第 3 回受賞（2001/7/18）河村公隆（北海道大学低温科学研究所）「降雪・氷床コアの有機物解析による大気環境復元の研究」（受賞者の敬称は省略させていただいた）

以上、4 回にわたって手元にある資料をもとに「有機地球化学研究会の歴史」を振り返ってみた。資料の不完全さとともに私の記憶の曖昧さから十分な纏めとはなっていないだけでなく、誤った記述があることを危惧している。会員諸兄姉の協力を得ながら、さらに充実した「歴史」となることを期待して 4 回に亘ったこのシリーズを終りたい。（2001 年 8 月 8 日記）

有機地球化学研究会ホームページが新しくなりました。

新しいホームページアドレスは、<http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~jog/> です。



左図は、この度、新たに公開された有機地球化学研究会のホームページです。

「研究会概要」からは、研究会の紹介と活動内容、運営組織、研究会会則が閲覧できます。

「入会案内・登録更新」では、「入会・登録更新フォーム」により、住所・職場変更等の申請を行うことができます。

「年会のお知らせ」からは、シンポジウムの情報を紹介しています。

「賛助会員」では、賛助会員であります「石油資源開発株式会社」、「株式会社ジャパン

エナジー」のホームページとリンクしています。

「研究会アーカイブ」では、研究会の各種最新資料（会員名簿、総会・運営委員会議事録等）を公開しています。「Share Stage」（NTT コミュニケーションズ社）を紹介し、「Share Stage」にリンクしていますので、最新資料をダウンロードや閲覧をすることができます。また、過去のニュースレター（PDF ファイル）を閲覧することもできます。

このトップページからは、最新ニュース、学会シンポジウム開催情報、有機地球化学トピックス、研究会会長の挨拶、事務局・会員メーリングリストの紹介が閲覧できます。

ホームページに関するご意見、ご質問は、研究会事務局にお寄せ下さい。

事務局メーリングリストアドレスは、jog-secre@ep.sci.hokudai.ac.jp です。

移動された会員の皆様へ事務局からのお願い

職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。

E-mail アドレスをお持ちの方には将来的に電子メールによるニュースレターの配布も検討しており、可能な限り E-mail アドレスを事務局までお知らせいただきたくお願いします。



第3回(2001年度)有機地球化学研究会研究奨励賞(田口賞)受賞者 松本公平氏、早川和秀氏
(左より石渡会長、松本氏、早川氏)

発行責任者 有機地球化学研究会会長 石渡 良志

〒168-0097 東京都杉並区高井戸西3-16-11(2002年2月より)

Phone: 03-5930-7634, Fax: 03-5930-2329, e-mail: rish@jcom.home.ne.jp

有機地球化学研究会事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻内

有機地球化学研究会事務局

Phone: 011-706-2730, Fax: 011-746-0394 / 011-706-2730

e-mail: jog-secre@ep.sci.hokudai.ac.jp (事務局員全員に配信されます)

郵便口座 00110-7-76406

(名義人 有機地球化学研究会)

普通口座 319-3463842 (北洋銀行北二十四条支店)

(名義人 有機地球化学研究会 鈴木徳行)

有機地球化学研究会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス: <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~jog/>